鍵姫物語 永久アリス輪舞曲 4

介 Kaishaku 錯

C111-4

発行 メディアワークス

9784840235419

ISBN4-8402-3541-4

C9979 ¥550E

1929979005504

MediaWorks

発行●メディアワークス

定価：本体550円 ※消費税が別に加算されます

雑誌 49057-22

鍵姫物語永久アリス輪舞曲◆介錯

CONTENTS

Episode：24 3P
Episode：25 27P
Episode：26 51P
Episode：27 75P
Episode：28 99P
Episode：29 123P
Episode：30 147P
Episode：31 171P
Alice Library 196P

Episode:24

いや……
この気持ち…
失ったら
からっぽ
ですの……
……!!

キサちゃん……!!
キサちゃん!!
ドン!!
キサちゃん
きら…はちゃん…
キサちゃん!!
キサのために涙を流してくれるですの…それだけで……
キサはそれだけで…

この気持ち…
なくさないですの……

……!!
ハアアアア

キ…サ…
ちゃん…
よくも…
許さない…
許さなければ
抗ってみなさい
おチビちゃん
きっと無駄な
抵抗ってものに
なるでしょうけど
私のこの
時間の能力
ある限りはね
キーン

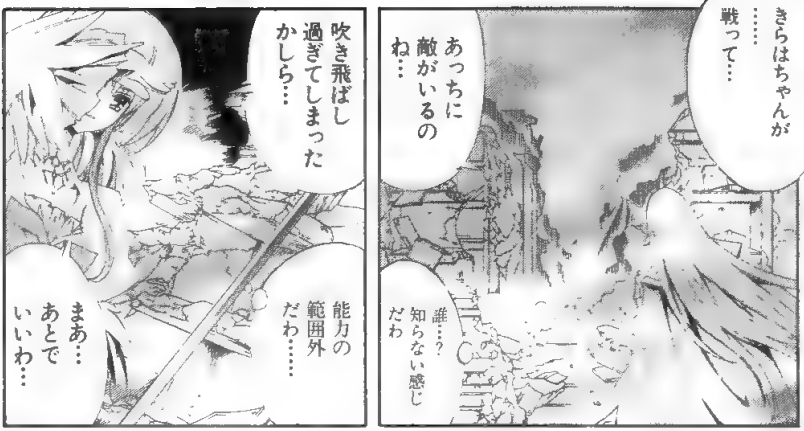
よくもっ
よくもキサちゃんを!!
!
!?
キィ

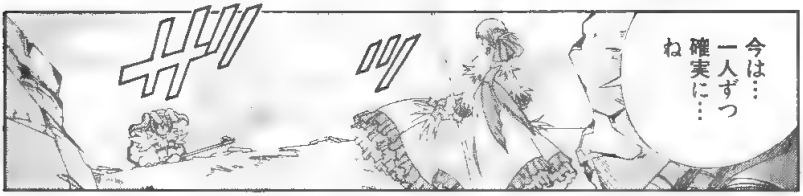
なぜ…!?
なぜ時間が巻き戻っていない!?
あいにく私には効かないみたいよ
あなたの能力が大したことないんじゃないの?
いいえ…
現にあなたの時は私の能力で止まって見えているわ…
なぜ…

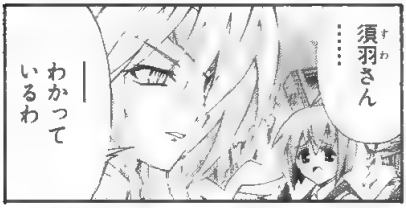
なぜ
あなたの時は…
子供に
巻き戻らない
……？
……!!
あなたは
なに――？
ドン
私
は

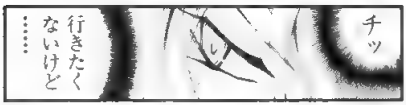
……!?
……!!
あ……

有栖川さんっ!!
あ 有人…君
ひ…ひどい 誰がこんな


きらはちゃんが……戦って…
あっちに敵がいるのね…
誰…？知らない感じだわ
吹き飛ばし過ぎてしまったかしら…
能力の範囲外だわ……
まあ…あとでいいわ…


今は…一人ずつ確実に…ね


須羽さん……
わかっているわ


チッ
行きたくないけど……

有人君の手前…行っておかないと…

一つずつコツコツ確実に…
それが掃除のコツだから…
そう簡単に片付けられるゴミじゃないわよ

大丈夫…？
有栖川さん
う…
う…
ふ…う
どこか
痛むの？
ふるふる
有人君…
私……

私って
なんなの…？
え…？
須羽さんとの時も――
今回もそうだった…
私の昔が……ないの…

私…
子供の時だけじゃない……
少し昔の事も思い出せないのよ!!
ぼろ
ぼろ
こんなに好きなアリスの物語も
どうして好きになったかのきっかけもわからない!!
それだけじゃないわ
私の家は——?
家族は——?
わからない!!
何もわからない!!

ねぇ…
そんなことって
忘れるものなの
…!?
そして
それに今まで
気付かない
なんて…
そんなのって
ある…?

これって…
何かの
病気って
こと――?
そうなの
かな…?
そ…
そんなことは
……

きっと
頭を打ったか
何かのショックで
記憶が混乱
しているだけだよ
あのあと
きらはにデリカシーが
ないって
怒られたっけ
どうかしたの?
アリス・
だったっ…!?
前にも…
こんな感じのこと
あったな

もしそうなら
きっと
きっと今に
「今」のことも
忘れてしまう!?
有人君たちとの
想い出も
アリスを
好きな
私も!!
有人君を
好きな私もっ
きっと全部…
全部忘れて
しまうのよっ
そんなこと
ない…
そんなこと
ないよっ
大丈夫だよっ

何が
大丈夫なの?!
なにもない
私の昔は
からっぽなのに!!
大丈夫なわけ
ない!!
有栖川(ありすがわ)
さんっ
どうしたら
落ちついてっ
だって
私は…!!
有人(あると)君を
忘れる私を
許せない
もの!!

ええーいっ!!

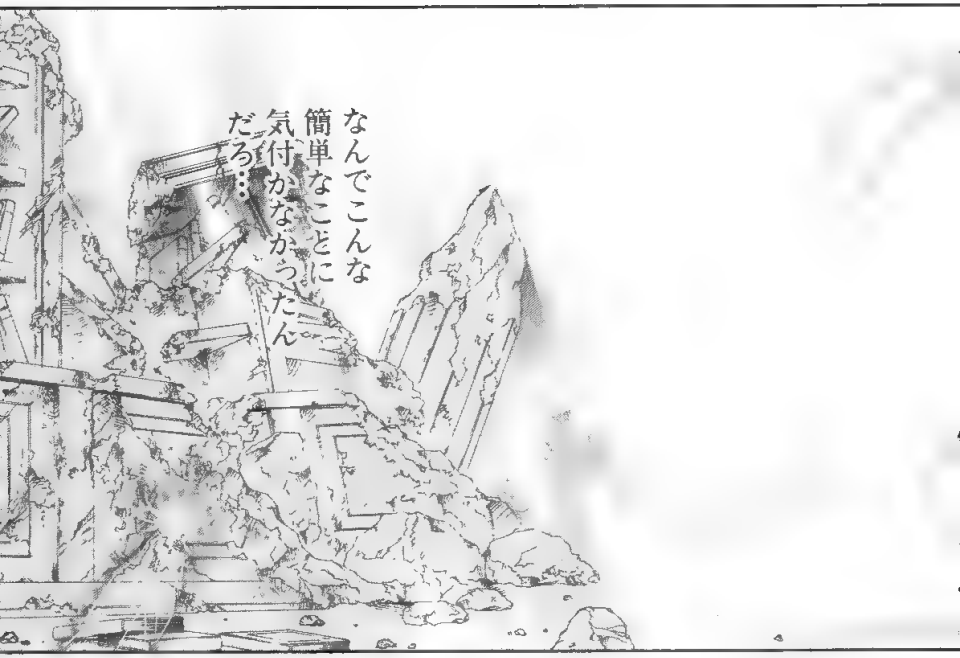
……!!
うわっ
思いっきり拒絶されたっ
ガーン
ちょっとショック…かも
ごめん…
でも…
これしか…思いつかなかった…

有栖川さんは
ここにいる…
ここに
今いるじゃないか
それに
僕は
そんな有栖川さんに
ああっ
ドックドック
…そんな
有栖川さんに

ここにいてほしい
それじゃ…
ダメかな

好きを…
いつまでも
いつまでも
待ちつづければ
いいんだ…

は
なんで…
ん
有人君さえ
望めば…
ん
ん


なんでこんな
簡単なことに
気付かなかったん
だろ…

みんなが
戦ってる…
行かなきゃ…
うん…

は
は
は

有人君…
キス上手いのね
ズリュッ
きらはちゃんといつもしてるから…？
須羽さんに教えられたなんて言えないっ
そ…そういうわけじゃ……

なに――？
このチカチカした光は――!?

Episode:25

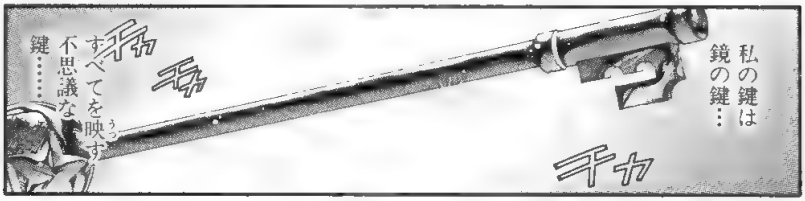
ﾊﾟｱｱｱｱ
なんだ…
この感じ…
まさか
鍵の能力――!?

だとしたら
フゥン
もっと早く刻を巻き戻すまでです――！
こ…子供にもどってしまう…？
なんて能力なの…!?
これじゃうかつに近づけないわ……

今ならわかる
私の内なる力
私の鍵の力
その
使い方!!

……覚悟を決めたようね……
ギオオォォォオォ
フ…ッ
賢明な判断です
スゥ…
ギクッ
そこの貴女の物語もこのあといただくから心配しないでくださいね
私の空間で時がゆっくり見える以上……
スタ
スタ
よほどの能力でないと危険はないはず……
スタ
スタ
ツ
!?

こ…これはっ!?
私が子供に!?
これではまるで…


私の鍵は
鏡の鍵…
すべてを映す
不思議な
鍵……
チャ
チャ
チャ

すべてを反射する
鏡の能力
キン

そんなにわか能力に——！
ヒュ
ヒュ
多勢に
無勢!!

負けない……

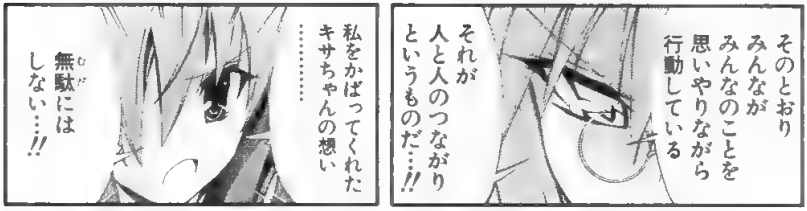
私は
結託しないっ
人数の暴力を使う
卑怯者に
屈しない!!
一人でも
負けないっ!!
きゃ

ひ…どい…
みんなで
よってたかって

卑怯とか
結託じゃないわ…

みんなで力を
合わせる――
それが友情よ！

そうだ!!
僕たちは…
みんなで願いを
叶えるため
協力してるんだ!!
卑怯とか——
そういうことじゃ
ない……
卑怯なことばかり
していた
有栖川さんも
変わったし…!!


そのとおり
みんなが
みんなのことを
思いやりながら
行動している
それが
人と人のつながり
というものだ…!!
私をかばってくれた
キサちゃんの想い
……
無駄には
しない…!!

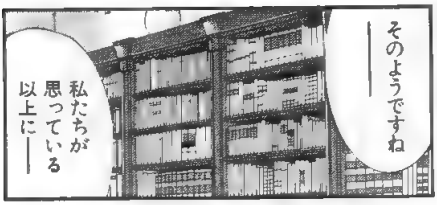
この人たちは
——
あいつらとは
違うんだ…
詭弁だとは
思うけど…

私の……
人をはじめから
信用しない私の
判断ミス…
だわ……

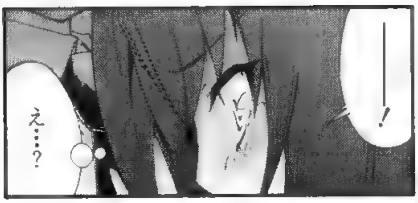
パァァァ

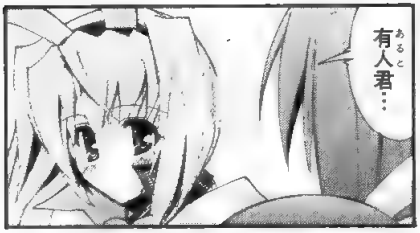
ほう…!!
これは…
リデル
君の予想が
はずれたよ

彼女たちは
思っている以上に
したたかなようだ


そのようですね
――
私たちが
思っている
以上に――

ばっ
お兄ちゃん…
きらは…
キサちゃんが
……
キサちゃんがぁぁ
……!!


――!
え…?


有人君…

え…？
えッ…？
なに…？
なんで――？
なにが あったの
……!?
……いえ
なにか……
なにか あったんだ
きっと……!!
二人との間に……!!

私の女の勘がそういってる――

ドクドク
ドクドク
ドクドク——

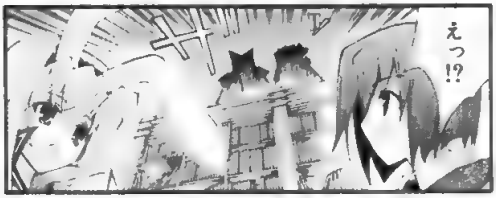
キサさんのことは
悲しいけど
しかたないわ
彼女の分も
がんばって
終わらないアリスの
真を集めるしか
ないわね
キサとありす以外は
私の手の内
なのだから……
私にとっては
好都合……
二位を倒したん
だから……
だいぶ願いに
近づいたんじゃ…
――いや
それも
あやしくなって
きたぞ……
我々は
アリスマスターに
踊らされている
だけかもしれない
そうきたか…
せ 先輩っ
なんで普通の
年齢なんですか?
誰かさんの
羽栞ともども
一度物語りを
奪われてね…
――!
だが おかげで
すべての私を
取り戻した…
ある意味
感謝しているよ
このアリスロワイヤルという
物語の奪い合いは
終わらないアリスを
完成させて
願いを叶えるためでは
ない――――

アリスマスターがこの図書館の本のように効率よく我々の物語を集めるために
仕組んでいることなんだ!!

……

僕も
このたくさんの本が
みんなの心の物語じゃ
ないかとは
思いましたけど
まさか
そんな
ことって…
そうよ…
「終わらない
アリスの物語」が
完成しないなんて
……

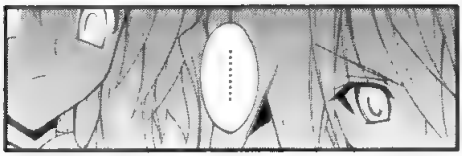
その証拠が
来たようだ
ぞ


えっ!?

アリス警察
参上!!
あなた方を
アリス秩序維持法
違反で……
逮捕します!!

「終わらないアリスを終わらせない」ための障害は――
この世界から消してしまわないといけないんだそうだ

マスターの傀儡(くぐつ)――
この世界平和を守るアリスポリスの目的だ――
そんな…!?


……

彼らは知りすぎてしまっているようだ……
これからが楽しみだったのだが……
いささか仕方があるまい
箒木(ほうき)君のことをロリーナに任せておいたのが仇(あだ)になったようだ……

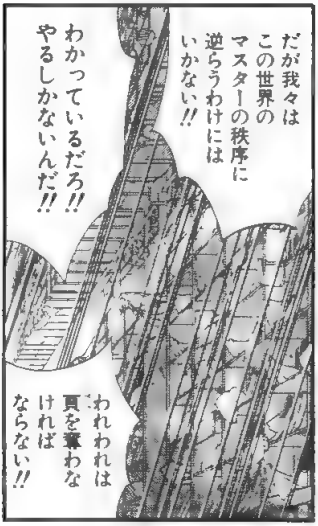
そんなのって嘘ですよね!!
今は放火魔暁アカネよりもこちらが優先だ…
そ…そうよっ利用されてただけだなんて……!!
君たちは私の世界の秩序を守るために存在するのだからね…
……
なに…? 本当なわけ?
私が調べたんだぞ…当然だ
彼女たちの真を奪っておいで…私のかわいいアリス警察たち……
ええいっ
やるしかないの…!?

最初から分身して
全力で行くわよ
……
あのロリーナを
倒したんだもの…
手を抜ける相手じゃ
ないわ……

炎相手じゃ
ないから
分身は
使えますけど
先輩……

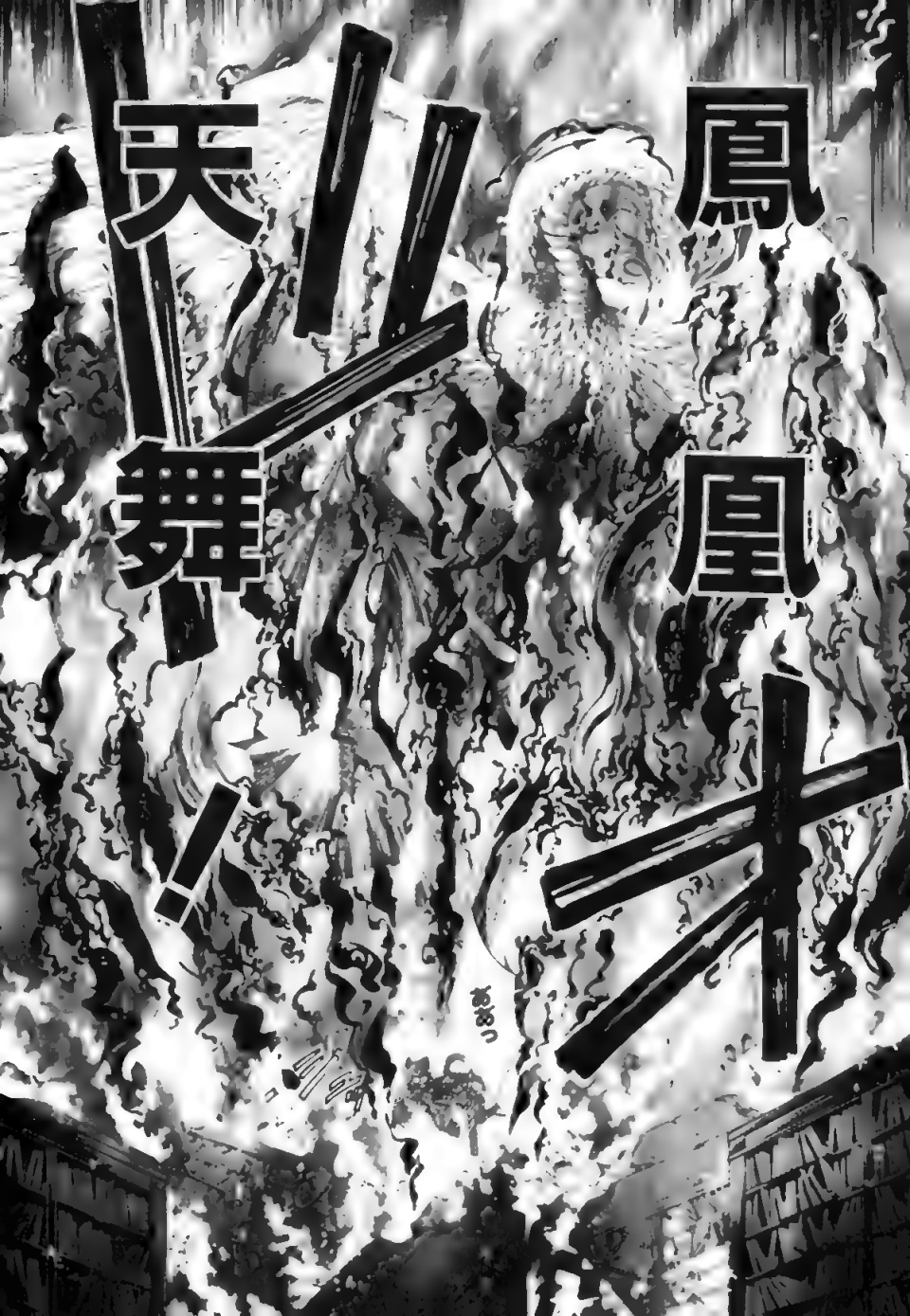
この人たちと戦いたくないですよぉ
だってこの人たち悪い人じゃないですよぉ

私情に流されるな!!
こんなのカッコよくないですよぉ
わかってるッ


だが我々はこの世界のマスターの秩序に逆らうわけにはいかない!!
わかっているだろ!!やるしかないんだ!!
われわれは頁を章わなければならない!!

その方が賢明だよ…
元の姿に戻されたくなければ…な
あら……

なんであれ彼女たちからマスターの居場所を聞き出すしかあるまい
…そうね……


天ノ舞
鳳凰十字!!

こ…これは
まさか…
またーっ
アリス警察に
見張りを
解かせたのが
裏目に出た
ようですわね…
それに今ので
あの二人も…
猫も
ウサギも
玉子も
トランプも
みんな綺麗に
燃える……

アリス……
すべて綺麗にする
アカネ…
君はつくづくだよ
……

Episode:26

美しい物語は――
美しく燃える――

燃える――
燃える――
綺麗だよっ
アリスが一番綺麗に燃えるよっ
少女たちの物語が燃える――

そんなの…
いいわけない…
いいわけ
ないよ…!!
みんなの
物語が…
お兄ちゃん…
止めなきゃ
…!!
僕が
言ってみるよ!!
有人君(あると)——
火を消すために
あの力を私に——
ほら——
前に——
あ…うん
わかった
前にやった
やつだね
前に…!?

ぷよん
な…
な――っ!?
何やってるのよお兄ちゃん!!
ありすちゃんの胸にさわってーっ
え…!?
あ…!!
そ…そうか…
わあーっ

ドキ
ま…以前はそんなこと意識しなかったのに…！
ドッキ
ま…まいったなぁ…

なに赤くなってるのよ!!
プン
お兄ちゃんのH!!
スケベッ

い…いや違うんだきらは…
キサちゃんの物語の水の力を有栖川さんに上書きして——
それで火を消したことが——

そうそう別に変なことしたわけじゃ——

したわけじゃ…
したっけ…
……
プン

してっ!!
きらはにも
してよっ
お兄ちゃんっ!

え
してって
まさか…

キサちゃんは
もともと
きらはの
仲良しなんだよっ
あ…
そういう
意味か…

だから——
きらはの胸にも——

きらはの剣にも
きらはの中にも——
お兄ちゃんを…
お兄ちゃんの持つ力を
分けてほしい
ありすちゃんと
何があったか
知らないけど——
ありすちゃんだけだ
なんて…そんなの——
お願い……

あ……
うん…
そうだね…

キサちゃんは
きらはを
大切に想って
いたから
その方が
いいかもしれない

二人で
消した方が
早いしね
ぴょこ

じゃあ…
いくよ

うん
きて…
お兄ちゃん

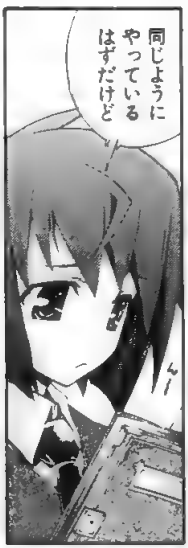
何でもない…
妹の胸に
さわるくらい
何でもないぞ…
ドキドキ

ん…
ぴく
ふふん

もっと
強くして
いいよ…
強く
私の心に——
きらはは
妹だぞ…
何をバカなこと
考えて——
ドキドキしてる
んだ——

集中して…
キサちゃんの物語を――
――あれ？
何ともない？
うん
おかしいな……前に有栖川さんにやった時は成功してんだけど…
何か間違ってるのかな
お兄ちゃんもう一回――っ
有人君 有人君
私の方は成功してるわよ

!?
ほら…


同じように
やっている
はずだけど

何で…
ありすちゃん
だけ——

私たち二人の
結びつきが
強いから
かな——？
それとも——
！

ありすちゃん
なんかより
きらはの方が
ずっと一緒に
いるんだから!!

おい!!
きらは
きらはーっ
ずっと!!
ずっと
結びつきが
強いんだから
ねっ!!

はっ
ごめん…
なさい

い…いやねぇ
そんなの
わかってるわよ
きらはちゃん
込みでの
有人君だってことも
わかってる…
私が言いた
かったのは

きらはちゃんが
鏡みたいに反射する
能力を手に入れたみたいに
この何にでも
能力を変える
不思議な力が
私の鍵の
能力かもしれない

まるで「不思議の鏡」ってところだね
そうね――
何が不思議の鏡よ
心の中の物語を上書きできるってこと自体変だと思ってたのよ
まるで――
中身がからっぽみたいじゃない
!?
そう…
かもね――

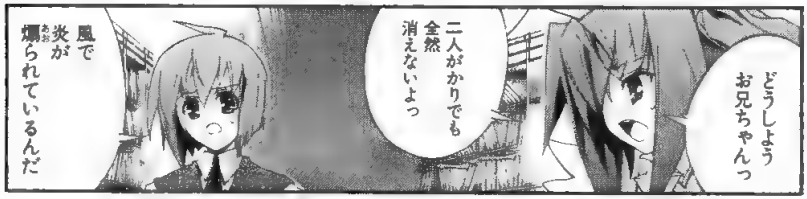
ほらほら
早くこの火を
なんとかしないと
そうだ!!
きらはの能力で
水を反射させて
たしかに…
物語の上書きとは
各々の持つ心を
変えて行くことと
同義だ…
固まってしまった
個人の物語に対し
そんなこと可能なのか?
それとも
やはり
鏡の――
できるから
しているんでしょ?
それも
有人君の力
――
想像力の
なせる技ね
ずいぶん
肩入れ
するな
利用することしか
考えてないくせに
――
相変わらず
人付き合いは
苦手なようね
研究分析
だけでは
夢も人の心も
理解できないわよ
ワキャキャキャキャ

ついに醜い本性を出したな
貴女にはここで消えてもらうわ…
そうやって汚い手段で物語を集める気か!!
願いが叶うという保証もないのに!!
願い――?そんなものにこだわってないわ
私の計画を邪魔されたくないだけ――!!

私は私のやり方で
手に入れたい
ものがある
そのために
貴女の口を封じなければ
ならないわ
醜い子供の夢!!
貴女には
理解できないで
しょうけど
もはや
物語集めなんて
二の次なのよ!!
計算や都合だけでは
ない――
人を思いやる
心――
それが人らしいって
ことだろう――!!

風雅の鍵よ!!
切裂け!!
風…!!
よりによって
一番苦手な
能力…
私の羽が
風で流されてしまう…
でも…
今後のために
喋らせる
わけには…
有人君の印象を
悪くするわけには
いかない…
どうすれば
……

炎が…


どうしよう
お兄ちゃんっ
二人がかりでも
全然
消えないよっ
風で
炎が
煽られているんだ

隙あり
――!!

いいのかしら?
貴女の起こした風で
大変なことになっているわよ
しまった
――!

な!?
あ
あぁ

バキバキ
く…!!
捕まえたわ…
バカな…
この炎の中ではお前も
それでもかまわないわ――
かまわない――

私は希望を
見つけた
有人君
物語なんて
集まらなくても
願いは叶ってるに等しい
貴女さえ
いなくなれば
そ…うか…
願い
叶っているか
それは
私も同じだ
じゃあ
勝ち残る
理由なんて
ないんじゃ
ないかしら?
ホホホホ
ホホホホ

やった!!

風が止んで
炎が少し
弱まってる
でもやっぱり
アカネちゃんを
捜して止めないと
根本的な
解決には…
だけど
彼女は――

やっぱり…
そんなに強いの
――?
大丈夫よ
みんなで力を
合わせれば
きっと

そういえば
須羽さんと
先輩は
どこへ――？
さぁ
――
まって――
誰か
炎の中で
戦ってるわ
――
え

アリス
綺麗に燃やす――！
やってみなさい

Episode:27

アリス…
無理に…
なれぇぇ!!
そんな
炎なんか
使わなくても
私は無理て
いることに
気をつけて
いるわよ
アリス…!!

逃すわけには
いきません
竜皇
アリス…
これで…
綺麗に…!!

うわぁぁ
す…すごい…
この程度の炎の具現化能力で
この世界をかき回してほしくないわね…
わかる？
アリス…
…アリス…

ああああ
あああああ——ッ
ヒュ
ナカ
ナカ
ナカナカ

つ…
強い…!!
アカネちゃんが
あんな一方的に…
あれ…本当に
司書官さん!?
こんなに
強かったなんて…
彼女は
この世界では
最強なのだよ
わっ!?
ア…アリス
マスター!!
なぜなら
ここは彼女と
私で造り出した
世界…
現実世界で
借りがあった
わね…

いかに部外者の
暁アカネといえど
この世界の
中では
ふっ――！
あッ
ア
アンデルセ…
アンデルセンッ!!
アンデル
セン!!
楽には…
物語を
奪って
あげないわ

ア…
アカネちゃん!!
ハァアアッ

やめてください
司書官さん!!
なにもそんなに
しなくても!!

アリスマスターも…!!
やめさせてください!!

アカネちゃんは
確かに目的や
理由もないし
ひどいことを
したかもしれない…!!
でも…

もう戦う気も
失ってるのに
ここまで
しなくても…!!

フッ
有人君…
君は…

君は自分の物語に
土足で入り込んできて
ストーリーを
引っかき回されることを
許せるのかい？
彼女のおかげで
予定が大幅に
狂ってしまった
え…？
知ってのとおり
みんなの物語も
図書館も大分
焼かれてしまった
のだ――
それを
――

許せるとでも
思うのかい？
ア……ッ!!
ビクッ
さよなら
チャッ

アンデル…
セ……
それは
――
僕なら――

有人君
しっかり――！
有人君は
なにも間違ってない
気に病むことは
ないわ

そうよ お兄ちゃん
そんなことで
心を乱されている
場合じゃないわ
それよりも…

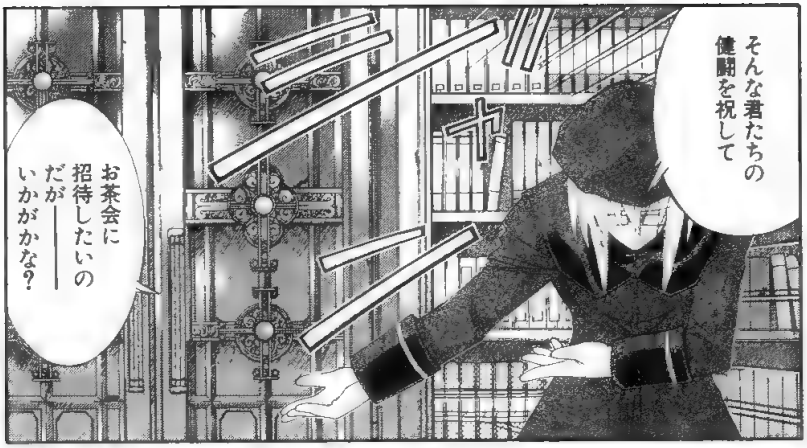
そうだ…
ついつい
アカネちゃんとの
戦いに目を
奪われてしまった
けど…

アリスマスターに
あのっ――！
聞かなければ
いけないことが
――！

おめでとう
おめでとう
勝者たちよ
おめでとう
!?

私は君たちを
祝福しよう
――?
ありす君
きらは君
なぜなら
君たちは――

このアリスロワイヤルの最後の二人になったのだから
えッ…!?
だってキリカ先輩や須羽さん――
司書官さんは――
箒木キリカ君は先ほどリタイアしたよ
須羽君も同じだ
ええっ!!
先輩が!?
それにリデルはここを管理しているだけにすぎない
戦ったのはアカネ君をとめて火を消すためだ
残ったのは君たちだよ

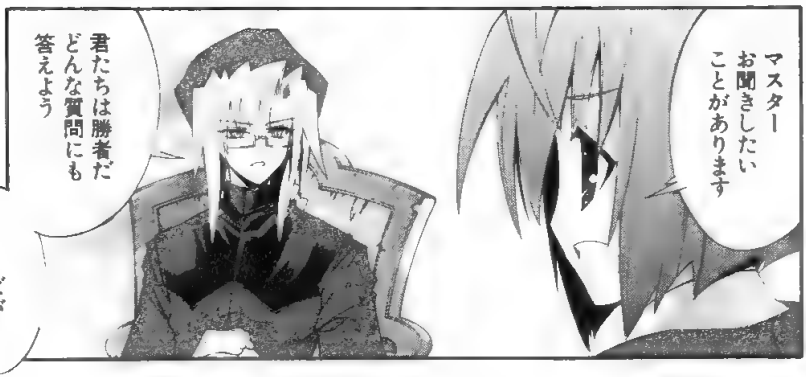

そんな君たちの
健闘を祝して
お茶会に
招待したいの
だが――
いかがかな？

お…
お茶会!?
いつの間に
扉が…!!

話があるなら
そこでゆっくり
聞こうと思うが…
どうかな？
ど…
どうする？
どうする
って……
お兄ちゃんに
まかせる
さ…
どうぞ

おいしい…!!
それは良かった…
いいお茶を用意した
甲斐があったと
いうものだ

ちょっと
お兄ちゃん
!
——!
そうだ…


マスター
お聞きしたい
ことがあります
君たちは勝者だ
どんな質問にも
答えよう
——だが

予定外のことだが
「終わらないアリスの物語」は

残念ながら
揃わなかったことは
あらかじめ
言っておくよ

君たちが
集めた物語以外は
アカネ君が
ほとんど焼いて
しまったからね
……

そうなんです…前に
少女たちの心に「アリスの物語が散らばっている」って言ってましたよね

でも それらは
燃えてしまった

燃えてなくなって
しまったってことは
ページがないって
ことよね
それでも本は
完成するの？

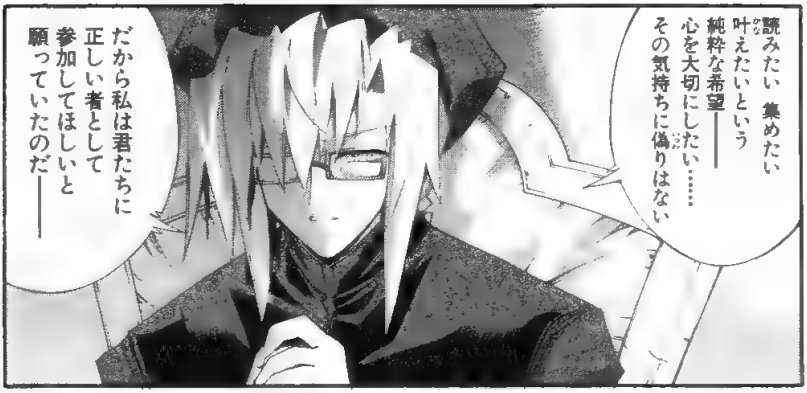
この図書館の本は
ほとんどが
今まで集められた
少女たちの物語じゃ
ないかと
思ってるんですが
どうなんですか？

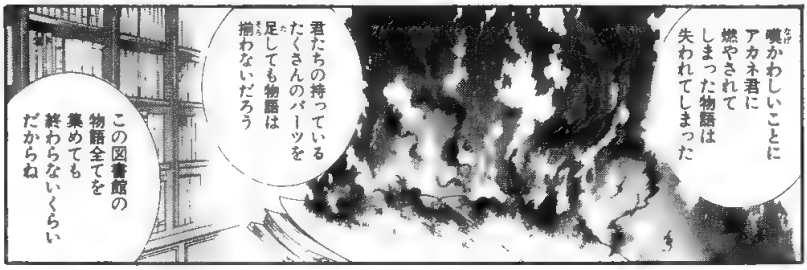
あんなにあっても
完成しない
ものなの？
そして——
本当に願いは
叶うの？

そして
キリカ先輩が
言っていた
終わらないアリスを
終わらせないための
秩序とは…
なんですか？

秩序とは——
以前に言ったとおり
物語の完成に
仇なす存在の排除
たとえば
アカネ君のような
他の物語からの
侵入や妨害——

そして
君たちのように
ここの秘密に
気がつきそうな者
特に
キリカ君が
それにあたった
！
彼女は賢く
優秀な
研究者だからね


読みたい 集めたい
叶えたいという
純粋な希望――
心を大切にしたい……
その気持ちに偽りはない
だから私は君たちに
正しい者として
参加してほしいと
願っていたのだ――


嘆かわしいことに
アカネ君に
燃やされて
しまった物語は
失われてしまった
君たちの持っている
たくさんのパーツを
足しても物語は
揃わないだろう
この図書館の
物語全てを
集めても
終わらないくらい
だからね

だが他にも心の中に
物語を持つ少女は
この世界中に
たくさんいる――
失われたものを
彼女たちで
補塡することは
十分に可能だろう

え…
それって…

それが…
終わらせない
秩序――？
でも それじゃあ
元々のタキオンの
「終わらないアリス」と
違うんじゃ
ないですか？
じゃあ本を
読むこと
なんて――

読むことはできる
終わっていない物語ならね
ほ 本当ですか!?
タキオン様――
私はねこれからも彼らに協力してもらいたいと思っているのだ
だから言わせてくれアリス
アリス…!? さっきはリデルって… それにタキオンって……!!
実際タキオンは
三冊目の本「終わらないアリスの物語」を書いてはいないのだから
えっ!?

私の尊敬するかのシェイクスピアはこう言ったよ
物語の全ては36のパターンによってできていると
ならばなんだ？
二冊のアリスもその中に当てはまっていると言うのか
自分たちの思考はすべてシェイクスピアの思考の上であったものなのか
タキオンがアリスに聞かせた物語は――
少女たちが夢中になってねだった物語は誰かの手の平の上のものであったのか
ならば問おう人の心も36パターンしかないのかと

少女たちの
心の中の物語は
無限だ――
心の奥底に眠る
気持ちや話――
そして強い想いは
それだけで
物語となり
人々を
引き込ませる力が
ある――
私に眩しい物が
ある事を教えてくれた
あなた――
死神は
涙する
――そしてまた私は
涙する

ならばそれらの
秘めごとを
つむぎ合わせて
物語にしたら
どうなる――？

その物語は
読むたびに姿を変える
カレイドスコープ
何度読んでも
違う旋律を奏でる
少女たちの物語――
何度でも楽しめる
物語――

それは正に
永久に終わらない
ALICE
終わらない
アリスの物語だと
思わないかね？

Episode:28

終わらない…
アリスの物語…
そんなものが…

そのとおり
そんなはず…
そんなはず
ないっ！
いくら…
いくら
血族で
アリスマスター
だからって
お兄ちゃ…
オルタナイト・L・
タキオンを
冒瀆するなんて
許せないっ!!

有人君——
アリスの本は
僕に楽しさを
くれた
ちゃんは
本ばっかり
ないよ
不安で眠れない夜を
ドキドキ
ワクワクして
眠れない夜に
してくれた!
アリスの物語は
僕に心をくれた
人と語り合い
僕に物語を想像する
心をくれたんだ!!
ありすの
お話は
この二つしか
ないんだ
何度も
面白いんだ
でもね
本当に?
そして アリスの物語は
僕に歓びをくれた…
創造する歓びや
人と親しくなる
歓びをくれたんだ!!!

アリスの物語がなければ僕は生きてこれなかったかもしれない……
きっと…
お兄たん
大好きなお兄たん
お話好きなやさしいお兄たん
あこがれのお兄たん
きっと…
お兄ちゃん……
どうしたらいいかさえわからなくて……死んでるも同然だった……
——それを
そんな素晴らしいアリスの物語を書いたオルタナイト・L・タキオンさんは素晴らしい人なんだ
それを冒涜(ぼうとく)するなんて……
僕は許せない!!

!?
ありがとう

タキオン様――

ありがとう…
有人君

そんなにも
私の作品を愛してくれ
チャ…

え…？
有人君…
この人は
……
？
？
私が
アリスの
原作者
オルタナイト・L・
タキオンだ
!?えっ

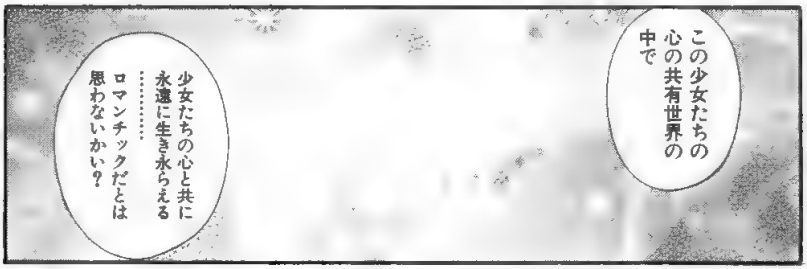
タキオンさん本人って…!!
そんな!!
生きているはずが…!!
!!

100年前以上に死んだはず…かな?
だが 私は現にこうして生きている

正確にはこの不思議の空間(ルヴェイユスペース)の中でだけで生きることができる
この世界から出ることはできない

100年以上って…そんなのあるわけないじゃない
オ・オ
オバケじゃあるまいし

不思議の空間(メルヴェイユスペース)…それは
現実から解離(かい)したい
想いを持った少女たちの
造り出した世界
夢見る少女たちの
想いの深層にある
共有の意識領域


この少女たちの
心の共有世界の
中で
少女たちの心と共に
永遠に生き永らえる
……
ロマンチックだとは
思わないかい?

あ……
有人君…
信用するの
……?
どうしよう…
本物だった
ら…!!
本当かどうか
わからない
けど……
ドキドキが
とまらない!!

これは…
チチチチチ…
ここは私の作り出した世界だと言ったはずだ……このくらいは簡単なことだ

かってこの風景の場所で私は
やわらかな午後の陽射しの中アリスに物語を聴かせた
不思議な冒険のお話だ…

アリスは夢中になった
私はアリスのためにもっと話を作り聴かせたかった

永遠にアリスを…少女たちを楽しませたかった
永久（おわらない）の物語
そんな物語を書きたかった——だが

だが
二冊目までしか
書くことが
できなかった
想像力とは
創造する力
悲しいことに
それほどの
想像力は
私にはなかった
ようだ……
そこで有人君…
君の アリスを
愛する気持ちで
君の豊かな
想像力で
私の力となって
アリスの物語を
書いてみないか？
ええっ？
そ…そんな
――――
そんな
大それたこと…
それに僕は
それほどの
想像力は…

いつまでも
二次創作(ファンジン)で
いいのかい？
君の書いている物は
ただの自己満足だとは
思わないかね？
君にはもっと
力があると
いうのに……

君はすでに
その本の物語に
よって
その才能の
片鱗を示し
タキオン様…
そこまで
……
現実に
キャラクターを
創り出し
成長までさせて
いるというのに…
え…？
僕が
キャラクターを
……!?
よーく
思い出して
ごらん？
有栖川ありす君との
ことを……
出会いは？
姿は？

月光に光る——
本から抜け出たような
少女——
想像(自分)のアリス
そっくりの
ありすに出会い
アリス…!?
自分が望んでいた
アリスのように
不思議の世界に
誘われなかったかい?
それは正に
理想の——
不思議なことは
あの時あれほど
散乱した
中は
アリスは…
そうね夢…
女の子としての
夢……
その夢の
ためなら
なんだって
するわ
アリスを共感し
語り合い
共に冒険できる
ありす

読む方法がある…としたら？
読みたい!!
ぜひ!!
当然
趣味も合う
としても!!
そうよね!?
そうよね!?
やっぱりときどき…
有栖川さんが
アリスみたいに思えて
ドキドキする…
そんな ありすと
恋人同士には
なりたいと
思わなかったかい？
有栖川さんは
有人君——
つき合ってるって
思ってるのかな…
どっちなんだろ
……
お互いに
気まずく
なりたくないし…
いまさらだけど

三人で
それまで敵であった者と力を合わせ
アリス同盟結成～～～
ちょっとぉ
有人君…
それに…卑怯な戦い方― よくないと思う―
戦い方を変え
やめてほしい
そんな戦い方― してほしくない
できる限りの協力はするから
よ…よく考えたら私… 不意打ち以外で勝った事… ない…かも…
だって… 有人君が
卑怯な事はするなって…

炎の中では捨てられ残されることをおそれて
容易く同じ者を信用し
そうだ!!
お…兄ちゃ…
ぺら
ぺら
ぺら
ほら…
心の物語の中に人の物語を上書いて能力を使う――そんなことができるとでも?
!?

巻き戻せる
過去もないし――
子供は
巻き戻らない……？
あなたは
誰――？
私…
子供の時
だけじゃない
そして
思い出せる
記憶もない――
そんな人間が
いるとでも？
少し昔の事も
思い出せないのよ!!
そして――

……気づかなかったのかい？
すべて君が望んだままに行動していたというのに
……！
君の書いた物語を読んで
それに気づいた者もいるというのに
これは……
読まれたくないという想いはその意識の現われかと思っていたが？
そ…………そんな……
バサッ
そんなことって……

ドカーッ

ドクン
有人…君……

まさか……
有栖川さんが……!!

Episode:29

私……
が……

有人君が造り出したアリス……
有人君が想い書いたとおりの…
有人君の理想どおりの…
そんなことって……

そこで……
私の……
私のこの気持ちは……

ありすちゃんは
お兄ちゃんが
造り出した
物語……
存在しない…
人間ですって？
そう……
そして……

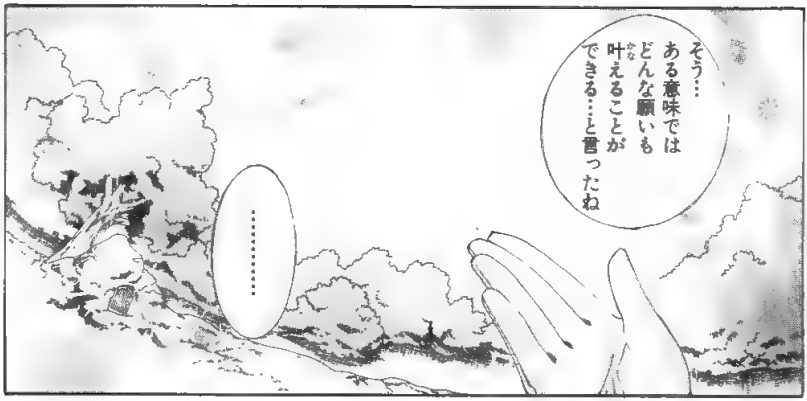
それは
物語のキャラクター
であり
有人君の考えつかない
場所には
存在さえしえない
だが 確かに
有人君の目の前に
存在する
100%理想の
完璧なアリス
そうだろ？
有人君

……
そんな…
だって
ありすちゃんは
ここにいるし……
ねぇ……
……
お兄ちゃん
なにか言って
よ！
お兄ちゃん!!

自分の理想の物語…
キャラクターを
作り出す…それは
、こうであったら…と
そして こうでなかったら…と
別の自分の造り出す
アリス能力者たちと
同じこと……

だが現実に
存在すらさせてしまう
創造力…力
それは
なんら悪しきこと
ではないよ

そういう者こそが
物語を奏でるに
相応しい
だろ？
！



桐原有人(きりはらあると)…

私と共に――
この永遠の世界で
永久のアリスを
輪舞(かなで)しようじゃないか
パ
ア
ア
ア

この世界で…
理想のアリスと共に
生活し…恋をし
!!
……!
冒険するアリスの
物語を――

――認めない…
認めないわ!!
理想のアリスだなんて
認めない!!
アリスは
きらはなんだから!!!

こんな
存在しない
世界や
存在しない
人間なんて
消してっ！
お兄ちゃんを
元の世界に
連れ戻すん
だからっ!!
ありすちゃんも
こんな世界も
！
ギュ
みんな
みんな

消してやるっ!!

き…きらはちゃん!!
きら…は……
フラッ
反撃もしないつもり?
有栖川(ありすがわ)…さん…
う……う
僕は……
どうしたら……!!
ギュ…
簡単なことだよ……
アリスが勝つ物語を書けばいいんだ

物語の
キャラクターとは
そういうものだ
君がそう書けば
そうなるように
できている
現実に
存在する
きらは君の方は
そうもいかない
がね……
物語を創造するに
至った君なら
どうするべきか
わかるだろう
そんな
そんなことって…
だって…
は…
は…ッ
きらは は…
大切な妹で——

はじめは
それしか
なかったから…
本の中の
アリスは…
一人ぼっちの
僕を
励(はげ)まして
くれた……
本は裏切らない
一人ぼっちには
しないし
なにより…
本の中のアリスは
かわいかったから
それに
アリスの物語を
読んだり聞かせたり
している時は
すべてのことを
忘れられた…
それはまるで
自分の友達の…
あるいは恋人の話を
語り聞かせるように
夢中だったんだ…

でも……
僕はまた
僕の拠り所を
失くしてしまった…
うわぁあぁん
そしたら
きらは は
僕を元気づけるために
僕のアリスになるって
言ってくれたんだ…
僕の中の
雨で錆びついた
扉を溶かして
開けてくれた
のは――
アリス
じゃなく
僕の妹――
きらは
うれしかった――
だから……

きらはのために――
また お話 聞かせて…
ぎゅうううう
きらはを 喜ばせるために
お願い…
カリ カリ カリ カリ
きらはに 読み聞かせる ために――
きらはを… モデルにして――
僕の大好きな きらはを 大好きなアリスの イメージと だぶらせて――
もっとアリスの物語を 読みたいって言ってくれた きらはのために――
好きがいっぱい いっぱい いっぱい つまった アリスの物語を 書いたんだ――

それが なんで
語り聞かせた
妹と――
聞かせるための
アリスが
戦わなくちゃ
いけないんだ!!
決まってる
じゃない!!

理想の彼女だなんて認められるわけない…!!
しかも それが理想の女の子(あいつ)だなんて!!
私が消えたくないから……
有人(あると)君がそう望んでいるから――!!
現実にいるきらはがお兄ちゃんの一番(アリス)なんだから!!
……私を必要としているから戦っているのよ!!

ああ……
僕は…
僕は
どうしたいんだ
…!!
うう……
私は同じ作家として
有人君にとって
ありすと共に
この世界に残った方が
幸せだと思うがね
ただのつまらない
現実の日常より
現実どおりの
ハラハラドキドキする
現実の方がね
なにせ
ここは——
我々にとって
現実なのだから

仕方がない…
いささか無粋だが
リデル…
ありすに加勢して
あげたまえ
彼女は
三冊目のアリスに
なるかもしれない
存在……
……
それを
失うわけには
いかない……
――？
どうした？
リデル
――
できません
…そうか……
気が乗らないか
……
ならば
私の自らの
物語で――

決着を
つけるとしようか

きらは は
渾身の力を
込めて
一撃を
繰り出した
たあああ
――っ

それを見た
ありすは
口元に少し
笑みを
讃える
読んでいたのだ

手首の動きだけで
白銀の剣の穂先を
弾き
一気にきらはの
懐に潜り込み
肩をぶつけた

きらは はあまりの衝撃に
呻き声を上げてぐらりと傾く
ありすはその隙を
見逃さなかった――
そして

きらはの胸に咲いた
一輪の花は
真っ赤な花弁を
散らし
きらはの体は
糸の切れた人形のように
――?
な……
どういう
ことだ…?
なぜ私の
物語どおりに
ならない……
本当に…
お気づきに
ならなかったの
ですか…?
有栖川ありすは
あの娘たち二冊と同じ
アリス……
はじめは貴方の
創造した範囲と同じ
あのぐらいの
子供だったの
でしょう……
でも彼女は
それをこえて
成長した…

貴方の想像の及ばないほどに
成長したアリス…そして
それほどまでに
成長させるほどの
想像力を持った
桐原有人……
彼の貴方をも
越えてしまった創造力を
貴方が止められると
でも？

ばッ…
馬鹿な!!
アリスを
考えたのは
私だぞ!?
私の物語だ
二次著作者の
くせに
そんなことが
……！

キャラクターとは
物語の中で
生きている…
それは誰の
作品でも
同じこと

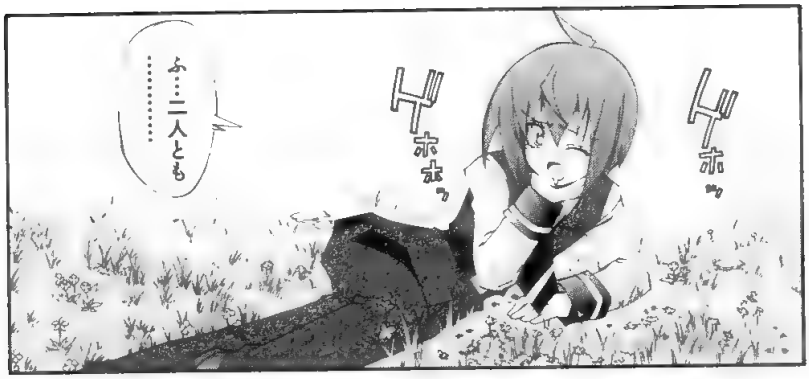
二次著作が
一次著作物をも
越えて飲み込んで
しまうことが
ないとでも――？
若い才能に
貴方の――すでに
枯れてしまった創造力が
勝り続けているとでも？
……くッ!!
認めない!!
うがっ!!
認めない
ぞ!!
私はそんなことは
認めないィィィッ!!!

おかしいだろ!?
ありえないっ!!
一次著作を越えた二次著作なんてあるはずがない!!
私が考えた物語だぞ!?
――ですが事実です……
あ……
どこがだ有人のどこが私より勝れていると言うのだ!?
私の……私の手の中じゃないか!!
ゼロから考えることもできないやつのどこが創造者なのだ!!
ええっ!?

ぐ……!!

Episode:30

有人君に
お兄ちゃんに
手出しするのは
許さないっ!!


ゲホッ
ゲホッ
ふ…二人とも……

大丈夫 有人君！
大丈夫 お兄ちゃん
たた。

お兄ちゃんを助けてくれたお礼は言うけど
初めて会ったときからきらはのマネばっかりするのはやめてくれない？

それは私の台詞よっ！
有人君を一番心配しているのは——
一番必要とされているのは私なんだからっ！

そんなことないわっ
きらはが お兄ちゃんの 最初のアリスなんだから
アリスはありすよ!! 有人君がそう望んでいるんだから

そう望んだからここにいるのよ
なによカッコまでマネしちゃって
そっちこそ!!

違うっ
二人ともやめるんだっ!!

二人が戦う理由なんてない!!
別に願いが叶うわけでもない…終わらないアリスが読めるわけでもない…全部嘘だったじゃないか!!

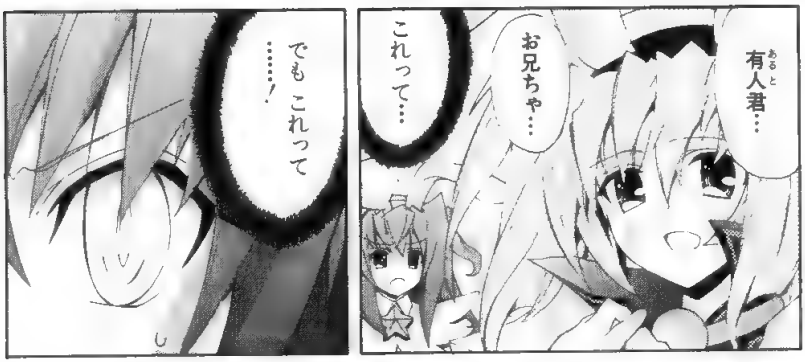
有栖川さんが僕の作りだした物語の人物だなんていうのも嘘だ……
たまたま…そう記憶が混乱しているだけなんだよ
有人君…

お兄ちゃんなに言って…?
だって……

こんな人が…
こんな……
人の心や才能を
あてにしたり…
思いどおりに
ならずに
首を絞めたり
する人が…
僕の憧れていた
オルタナイト・L・
タキオンさんの
わけない…！
認めないっ！
僕は認めないっ!!
この人が…
アリスマスターが
アリスの原作者だなんて
認めないっ!!
そう――
すべて
だまされて
いるんだ!!

タキオンの名前を騙る偽者や――
その偽者が作り出した世界に!!
!
この世界も…
ヨヨヨヨ
嘘だっ!!
認めないっ!!
ほら…
ほら…!
元の図書館だよ…!

嘘……
全部嘘なんだよ!!
気にすることなんてないよ!!
有栖川さんっ
ねっ


有人君…
お兄ちゃ…
これって…
でも これって
……!

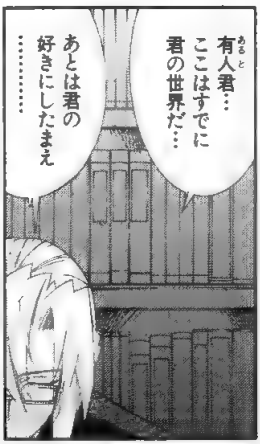
リデルさんの
言っていたとおりって
ことじゃ……
――つまり……

つまり
ありすちゃんは
やっぱり…
ははは…
たしかに…リデル…
君の言ったとおりかも
しれない…
私すら否定する
想像力…
そこまで
自由な発想は
私にはない…
すまないリデル…
私の想像力は
すでに枯れていた
ようだ……
私たちの終わらない
物語は
これ以上読ませられ
そうにないよ……
タキオン様
――!

私は……
ここまでして
新しいアリスの
物語が読みたかった
わけではなかったの
です……
あなたと
一緒にいられれば
それで――
それでよかった
のに……
物語をせがんで
貴方を追い詰めて
しまったのですね…
わぁあぁああ

リデル…

……

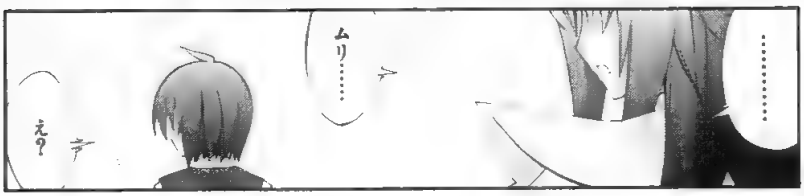

有人君…
ここはすでに
君の世界だ…
あとは君の
好きにしたまえ
……

まだ そんな
嘘を……
もともと
そのつもり
ですけどね…

こんな…
虚構と妄想で
塗り固められた
図書館じゃない…
外の世界へ帰りますよ
いつもどおりの
……
争ったり
憎い合ったり
することのない
本当の世界へ…
貴方の
嘘や幻に
付き合うのは
もうやめです

行こう……
有栖川さん…

行こう…
きらは…
今までどおり
みんなで仲良く
しよう


……
ムリ……
え？

ムリだよ
おにいちゃん…
外の世界に
ありすちゃんが
存在したとしても
今までどおり
仲良くなんて
できない…
だって
本当にありすちゃんは
お兄ちゃんが作り出した
理想のアリスだから

お兄ちゃんが
現実じゃない…
想像のキャラクターを
本当に好きに
なっちゃうなんて…
やっぱり
変だもんっ!!

本当に
存在する私は
……
そんな理想に
勝てない私は
やっぱり
認めるわけには
いかない……
しかも それが
きらはをモデルに
しているなんて
よけいに……

ありすちゃんだって
それをわかってる
……
だから 私と
考えてることとか
似てるんだって
仲良くなんて
できない…
できるわけ
ないよ……

ねぇっ!!
どうして!?
どうして きらはじゃ
ダメなの!?
きらはだって
こんなにアリス
なのに…!
きらは…は
きらは は妹
――――
きらは は
妹じゃないか…
変だよそんなの…

……
血がつながって
ないのに……
きらはと
お兄ちゃんは
本当は
血がつながって
ないのに!?

……
きら…は…
なにを…
言って…

僕たちは
……

お父さんも
お母さんも
みんな覚えてないと
思っているみたい
だけど……
私……
忘れられない
思い出が
あるから…
あぁあぁん
あんあん
お兄ちゃんとの
大切な思い出が
あるから
…覚えているの……

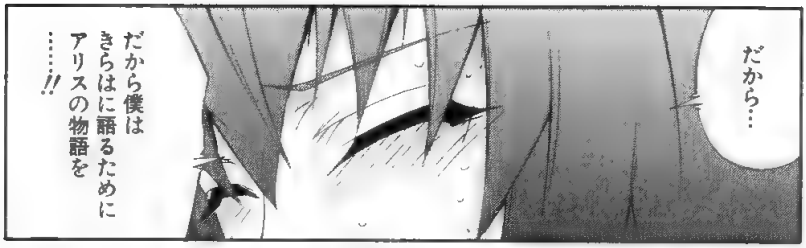
きらは…
ああーっ
知ってて…
知ってて
あんなことを
……
わっ!!
あにう
?

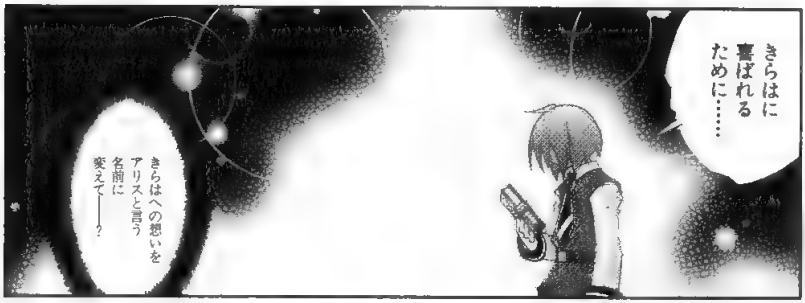
だって きらは は…
お兄ちゃんのこと
大好きだから…
キスをするのも
一緒におフロに
入るのも
きらはを見て
ほしいからだよ
……
お兄ちゃんは…
本当の兄妹じゃ
ないって
知ってたん
でしょ?

知ってたさっ
だからっ
――
…だから……
ス…

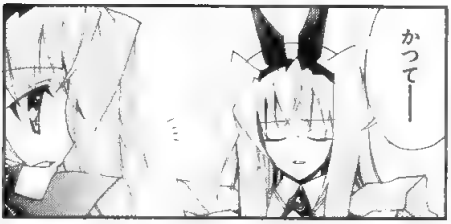
知ってて受け入れてくれたんなら……
なんで……
なんでありすちゃんが必要なの…？
違う……
違うんだ…
ばっ
だから…
妹に変な気なんかおこしちゃいない……
僕は立派な妹想いの兄じゃなくちゃいけないから…
そんなのいけないから…！
妹 きらはを大切にしなきゃいけないから…

血がつながってないからこそっ！
きらはとはより兄妹じゃなくちゃいけない!!
ありすを好きじゃなきゃいけないんだ!!


だから…
だから僕は
きらはに語るために
アリスの物語を
……!!


きらはに
喜ばれる
ために……
きらはへの想いを
アリスと言う
名前に
変えて――?

有人(あると)…君…


かつて――

かつて
タキオンが
私に語り聞かせる
ために
私がモデルの
二冊のアリスを
書いたわ……
そして
その物語は
――

夢のような素晴らしい話――
ドキドキしてワクワクするモデルとなった私への愛があふれる物語…
…知ってます……
有人君…
誰かのために作り語る物語は…
その相手にとってどんなラブレターより愛の言葉より深い意味を持つわ……
そのモデルが自分ならばなおさらのこと…
……！

貴方はきらはちゃんに
幾千幾千億の
愛の詞を想い――
語り聞かせたのよ
想いが通じ合わない方がどうかしてるわ…
気づいているんでしょ…
自分の本当の気持ちに…
本当に一番大切な人は誰なのかってことに……
はっ

きら…は…
きらは…
きらは!!

お兄ちゃん…
お兄ちゃん
お兄ちゃあああん
チリ…
……
チリ…
おめでとう…
だね……
きらはちゃん
……
有人君……
有栖川さん…！

だって私…
わかっちゃった
から…
私は…きらはちゃんの力で
生み出されたありすでも
あるから……

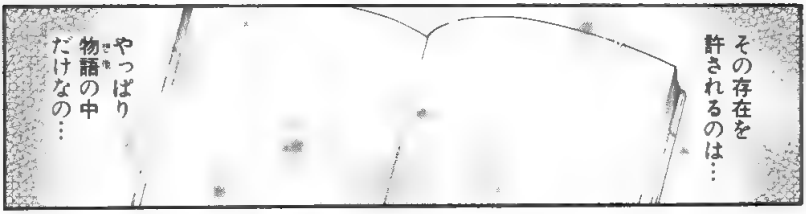
有人君の想いや
願いを受けて
きらはちゃんの
鏡の鍵に写し
出された
有人君と
きらはちゃんの
不思議のありす

有人君の
きらはちゃんを
好きな想い
そして
きらはちゃんが
有人君を好きな
想い――
願ってはいけない願い……
想ってはいけない
心の奥に秘めた想いが
生み出した私だから

有人君の想像力で
造られた私は――
有人君が
それを望んで
いるから――
本当は物語の中にしか
いてはいけない
虚構の女の子なの……

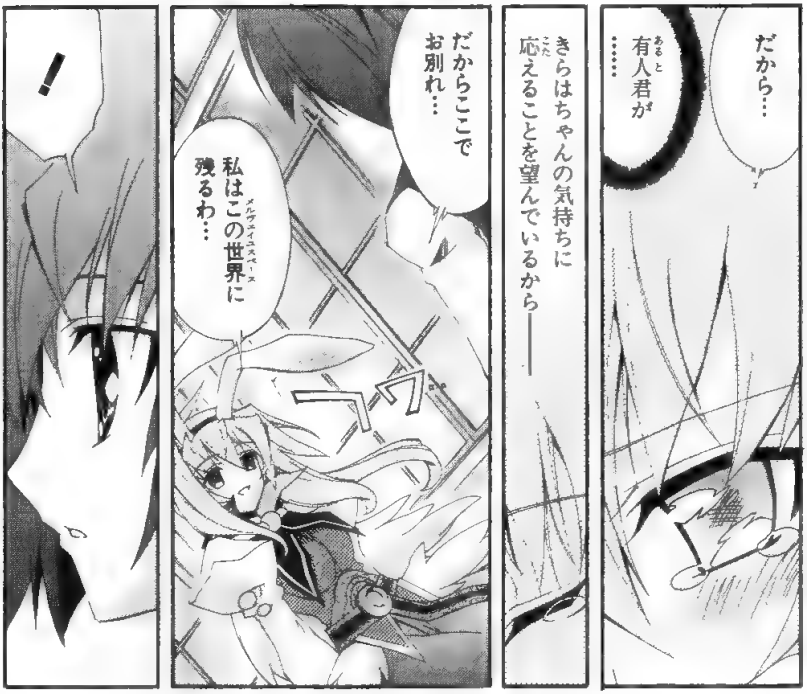
Episode: 31

物語の中の…
作られた…
虚構(きょこう)の――
理想の女の子(アリス)…


その存在を
許されるのは…
やっぱり
物語(はなし)の中
だけなの…

有栖川(ありすがわ)さん…

虚構と
現実なら…
やっぱり
現実を選ばなければ
いけないものね…


だから…
有人君が
……
きらはちゃんの気持ちに
応えることを望んでいるから――
だからここで
お別れ…
私はこの世界に
残るわ…
！

有栖川さん――
でも…!!
フルフル
有人君の
言いたいことは
わかるけど…
たとえ私が
現実に存在できる
としても…
一緒に
行けないわ…

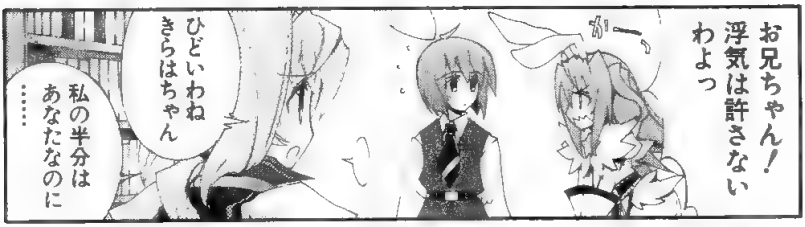
やった～！
どうして……
有人君…
よく考えてもみてよ
今の私の行動は有人君の創造——物語かもしれない
だとすると私の本当の気持ちはどうなるの？
あ…！
もしかしたら私の好きは有人君によって書かれた作られた物語かもしれない
あなたに作られた物語で気持ちをねじ曲げられているかもしれないのよ

いつまでも
有人君のことを好きな
理想のアリスだと
思わないでちょうだい
本当は…
好きじゃないかも
しれないのに！
きらは
きらは
ないからね…！

そうか……
そうかも
しれないね
……
物語の…
完成された
キャラクターは
自由に自分の意志で
行動するものね…
僕が好きな
理想のアリスは
……
わかった…？
もういないのかも
しれない…

ひどいのね
ありすちゃん
いや…
ずっと…
こうしてそばに
いたんだ
それを…
プン
プン
気づかせて
くれた…
違うよ…
きらは…
有栖川さんは
ひどくない……
ひどいのは…
きっと僕だ
——

さよなら…だね
有人君…
大丈夫…
物語を書けば
またいつでも
会えるから…
それも…
そうだね


お兄ちゃん！
浮気は許さない
わよっ
ひどいわね
きらはちゃん
私の半分は
あなたなのに
……

私の大きな胸は
きっと貴女の願いから
来てるんだと思うん
だけど…
えっ
ええっ!?
ずるい
っ!!

……
また…きっと
書くよ…
君の物語を…

よろしくねっ
……
あ…でも
Hなこととか
書かないで
よね
そ
そんなこと
しないよっ!!

お別れね…
うん…
現実とは過酷かもしれないよ…
ポフ
物語のようにうまくいかないかもしれない
逃げ出したくなるかもしれない

でもここは
私たちアリスの国…
物語の世界…
夢の世界――
憧れて…存在する
……でも
実際には存在しては
いけない世界…

そんな世界を
現実としては
いけないわ…
あなたたちの前に
未来は開けて
いるのだから

――はい…！

ガチャ
…それじゃ
また……

さよなら…
もう一人の私…
幸せに…

さよなら…
理想の私…

どこかで
わかってる…
……
さようなら…

さようなら
有栖川さん
さようなら
僕の幻想――

さようなら…
さようなら
僕の理想の
アリス…

キィィィィ
行こうか…
きらは…
うんっ
僕らが
あの世界の扉を
開くことは
もうないだろう

だって…僕らの心に秘めた物語はそのページを開いて明るい希望に満ちあふれているのだから——

そう…まるで金の鍵の物語のように……

私にはわかってる…

これから有人君が書くかもしれない物語は……

有人君…

私の物語じゃないって…

有人君…

もし私がいたとしても

それは私じゃないって…

有人君…

ぼろ
ぼろ
ぼろ
ぼろ
有人君が
私に会うことは——
私を必要と
することは…
もう一度と
ないんだって…
有…人…君…

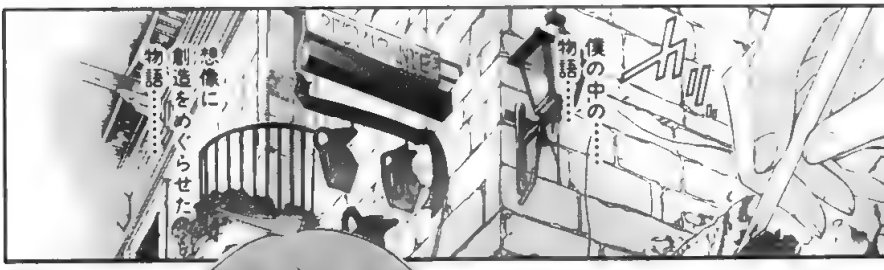
あなた…
本当に…
リデルさん
……

私…やっぱり
…やっぱり…!!

私自身の
気持ちとして…
私……

おしいね…
これほど
完成された
キャラクターを
成す力がありながら
……
アンデルセン
……か…
……
彼ならば
我らと同じマスターに
なることも可能だった
だろうに…
望むがままに
自由な世界を
造り出す
マスターに…
アカネが
見出したのも
その力だったの
だろう…?
あのまま…
身内のために書く
身内のための
物語の世界で
満足してしまう…
そんな者たちと
同じ道を
歩まなければ
よいのだが…

物語を
書いている


僕の中の……
物語……
想像に
創造をめぐらせた
物語……

僕の大好きな
きらはへの
物語

骨董屋で買った
羽ペンを使って……
ゆっくり丁寧に書いていく……
カリ
カリ

お兄ちゃんまだ――？
まだ聞かせてもらえないの――？
あれから――

あんまり期待されるとなかなかに難しくって…
うーん
えーっどんなのだっていいのに――っ

どんなのだってお兄ちゃんの作ったお話ならおもしろいのにーっ
プゥ
それがプレッシャーなんだよな～
僕ときらは は兄弟以上に親密になり――
ごめんくださいですの――
きさちゃんは前よりも明るく――
クッキー焼いてきましたですの♡
それじゃあ気分転換に
先輩も誘ってハイキングにでも行こうか！
さんせーい

君たち兄妹がただならぬ関係だとはわかってたつもりだったが……
まさか血がつながってなかったとはな……

いろいろバカみたいですよね…
それこそ青い鳥みたいな
幸せって身近にあるものだと実感します

先輩は――
そうか…
そんなものかもな……
ノーベル賞を取るため今までしてきたアリス症候群の研究の発表をやめるって……
今回は人間の心というものを大いに学ばせてもらったよ
集合無意識の深層心理領域がなんだとかってあいかわらずわからないことを言ってたけど――

人にとって
なにが幸せで
なにが不幸せかは
わからないが
失うことや――
現実ではない
些細なきっかけによって
幸せだと感じるように
なる場合もある
――ということだな

あの領域は…
救いのために――
救いを求める者には
考えを肯定する世界が
必要だと思う――
そしてそれらの心は
言葉や科学で分類される
べきではない――ってね
そうですね……
いい表情を
するように
なったんだ……
そうかも
しれません…
お兄ちゃーん
おい…
わがままお姫様が
呼んでるぞ
たたっ
あ
はーい
それに
しても…
本当に
…？
血が繋がってなくて
髪の色とか
あんなに似る
ものなのか……

なによぉ…
私の付け入る隙がないじゃない

パン
ALICE
想像力は
創造力に
変わる——
完成された
キャラクターは
一人歩きする
SHERLOCK HOLMES HOTEL
物語の中で
自由に動き出して
楽しい…
あなたはそう
言ったわ…
この行動は
私自身の行動
——
この想いは…
私自身の
気持ち
そして——
作られたもの
ではない
私自身の心…
迷惑？
いまさら
——？
お邪魔
——？
その想像力は
——
関係
ないわ

まだ勝ち目はあると思うのよね
ピンポーン
うん
はーい
なんたって私は理想のアリスなんだから
創造者を越え――
今度は私の言葉で
どなた？
物語を始めるわ!!
終わらない物語へ――

FINI

－介錯－

七戸輝正　太田仁

－アシスタント－

戸田陽近　冨岡将司
山下大輔　佐藤りえ
柴生田利則　山下裕次
梶山直人

－スペシャルサンクス－

外山太一
柳井伸彦
田邊千奈美

－デザイン協力－

あづまゆき　有子瑞
おーじ　さあべんと
桜沢いづみ　高木信孝
田中松太郎　七尾奈留
爆天童　橋本タカシ
MATSUDA98　宮下未紀
ムラナコ　蘭宮涼

協力－

高野信二（アクシア）

及び、アニメに参加していただいたみなさま、ありがとうございました。

メディアワークス
白羽の鍵

須羽アスカ
Asuka Suwa

すべてを利用してやる…

Character Design By

鍵名称◆白羽の鍵

能 力◆羽景を割し、トラウマ・弱点などを露出させる

STR：2	CON：2
INT：7	CHA：4
DEX：6	KEY：8

小説家。小説を書き続けるために誤った道を選ぶ。知略家で参謀家、自分の利益中心で動く。すべての鍵姫を自滅させ、頂点に立とうと画策する。

Liddell リデル

鍵名称◆黄金の鍵
能力◆不明

STR：不明　CON：不明
INT：不明　CHA：不明
DEX：不明　KEY：不明

日常生活では温和な性格。
アリス能力発動時は冷酷な戦闘マシンと化す。
最強のアリス能力者。
データ等は一切不明。

Character Design By へ錯

これが……私の秘密

リンベリ♪ 小花の鍵

悠里チユリ

Chiyuri Yuuri

チユリ、小さくなれるんだよ？

鍵名称◆小花の鍵

能力◆親指サイズになり、昆虫や小動物を操る

STR：4	CON：1
INT：7	CHA：6
DEX：8	KEY：6

幼稚園児であり最年少の鍵姫。天真爛漫で正義感が強い。若すぎるため鍵姫としての能力はまだ未発達。

Character Design By あこまゆき

ザ・タワー
古塔の鍵

高塔地チサ

Chisa Takatouchi

鍵名称◆古塔の鍵
能力◆髪を自在に操る他、強力な盾を生み出す

STR：3	CON：8
INT：6	CHA：7
DEX：5	KEY：1

箱入り娘で性格は内気で世間知らず。完全防御の盾と槍のような鍵を操る。美しく伸びた髪を自在に操ることもできる。

Character Design By 蘭宮 涼

この盾は…誰にも貫けない私の心

ロビンアーチャー
悠弓の鍵

鷹野カノン
Kanon Takano

鍵名称◆悠弓の鍵
能 力◆特殊能力を付与した様々な矢を射る

STR：5	CON：5
INT：1	CHA：7
DEX：7	KEY：4

矢のようなまっすぐな性格と明るさを持つスポーツ少女。数少ない完全遠距離戦闘タイプの鍵姫。自動追尾、爆裂の矢、煙幕の矢などを使う。

Character Design By 有子瑞一

Character Design By ムラナコ

ストリングスペンドル
紡錘の鍵

綾瀬アヤ
Aya Ayase

鍵名称◆紡錘の鍵
能 力◆糸で作成した様々な擬似生命体を操る

STR：1	CON：4
INT：8	CHA：4
DEX：7	KEY：3

ネットゲーム大好き娘。怠け者。リール型の鍵から発射する糸を思念波で操る。遠距離攻撃やトラップ攻撃を得意とする。

シリーズ・コウト
七羊の鍵

八木島シマコ
Shimako Yagishima

羊は時々狼になるゎ……

Character Design By 爆天童

鍵名称◆ 七羊の鍵
能 力◆ 6種の暗器と次元を切り裂くハサミを持つ

STR : 8	CON : 5
INT : 6	CHA : 1
DEX : 1	KEY : 7

普段は愛想のない女性で、物事をハッキリ言う。変身後は母性愛が目覚めた聖女の側面と、残虐性が同居する不思議な女性となる。

行きますよ？ 死なないでくださいね？

キャット・ザ・ブ
猫靴の鍵

御子柴ミコ
Miko Mikoshiba

Character Design By 田中松太郎

鍵名称◆ 猫靴の鍵
能 力◆ ネコ騎士を憑依させ、ネコ騎化し、剣術を使う

STR : 4	CON : 1
INT : 3	CHA : 3
DEX : 8	KEY : 6

実家が神社の巫女さん。西洋文化に憧れている。鍵姫時には身体能力を最大限に引き出すことが出来る。鍵姫の中でもトップクラスの剣技の使い手。

DENGEKI COMICS

鍵姫物語

永久アリス輪舞曲（ロンド）④

2006年8月15日　初版発行

著者　介錯

発行者　久木敏行

発行所　株式会社メディアワークス　〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館 電話03-5281-5215（編集）

発売元　株式会社角川書店　〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3 電話03-3238-8605（営業）

カバーデザイン　團 夢見（伸童舎）

本文デザイン　OnGraphics

装丁　朝倉哲也（design CREST）

印刷・製本　共同印刷株式会社

©KAISHAKU

R本書の全部または一部を無断で複写（コピー）することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。
本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター（03-3401-2382）にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊コミック電撃大王 2005年12月号～2006年7月号（メディアワークス刊）

ISBN4-8402-3541-4 C9979